

昔の大物ゆかりの地

# 歴史上の偉人

10kmコース  
コンセプトポイント



## 1 太子岩

607年、聖徳太子は推古天皇から加古川下流の土地100町を貰い受けた。聖徳太子が、加古川からその100町の土地までの用水路を作る際、堰を設置する基準にした岩だと言われている。1989年に加古川大堰が完成するまで、この用水は1,000年以上にわたって加古川下流地域の田畑を潤し続けた。現在、太子岩の大半は土砂に埋まり、岩の一部しか見る事はできない。

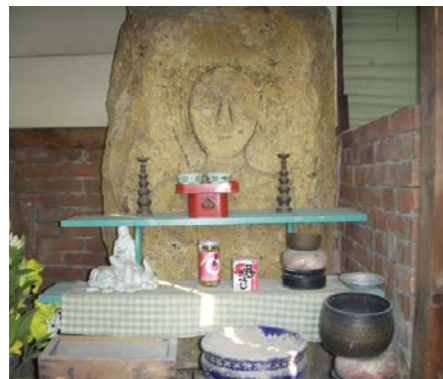
**チェックポイント** 飛鳥時代の偉人、聖徳太子の逸話が残る岩。



## 2 築山神社

国包出身の長浜屋新六郎という人が、加古川の水害に悩まされ続ける人々を見かね、私財を投じ、洪水の際に避難できる山を宝暦6年(1756年)に完成させた。その山は人の手で築かれたことから築山と呼ばれ、その頂上に地元の人々が感謝の気持ちと安全への祈りを込めて築山神社を建てたとされている。

**チェックポイント** 国包地区では、長浜新六郎は人々を救った偉人として知られている。



## 3 セイメイさん

厄神駅を作る際に掘り出された碑。安倍清明(あべのせいめい)の術がかかっているという言い伝えがあり、セイメイさんと呼ばれるようになった。また、青面(セイメン)、青面金剛(せいめんこんごう)さん、と呼ばれていたという説もある。どんな病気も治してくれると言われており、古くにはマムシ除けの神様として大切にされていたという。

**チェックポイント** 陰陽師(おんみょうじ)として名声を極めた安倍清明は播磨守を務めたとも言われており、その所縁からこの碑もセイメイさんと呼ばれるようになった。



## 4 宗佐の厄神さん (八幡神社)

祭神は息長足媛命(おきながたらしひめのみこと)、品陀別命(ほんだわけのみこと)、仲姫命(なかつひめのみこと)。天平勝宝(てんびょうしょうほう)年間(749年から757年)に孝謙天皇の願所[神仏を祈願する所]として建てられた。九州に向かう和氣清麻呂が道鏡の家来に襲われたとき、一頭の大猪が現れ清麻呂を救ったという伝説がある。それ以来、厄除の大神様として崇拝されるようになり、「宗佐の厄神さん」と呼ばれている。

**チェックポイント** 日本の第46代目の天皇である女帝・孝謙天皇ゆかりの神社。

### よりみちポイント

- A スタート・ゴール地点 加古川北公民館
- B 加古川大堰
- C 国包の鉄橋
- D 宮山農村公園
- E 西条の城山

- 【凡例】
- モデルコース
  - 1~4 コンセプトポイント
  - A~E よりみちポイント

©That's & Trial 2010

